



第33回南砺の地域包括 医療・ケアを守り育てる会

参加費無料・申込必要（会場参加は30名まで）



講演会
13:30~

「地域共生とは何か
ー共同性の回復に向けてー」

慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 教授
認知症未来共創ハブ・リーダー

ほった さとこ
堀田 聡子 先生



司会・進行

富山大学附属病院 総合診療科 名誉教授 山城 清二 先生



【講師】堀田 聡子（ほった さとこ）氏

博士（国際公共政策）。社会保障審議会・介護給付費分科会及び福祉部会等において委員を務め、より人間的で持続可能なケアと地域づくりに向けた移行の支援及び加速に取り組む。

中学生の頃より、おもに障害者の自立生活の介助を継続。共監訳に『コンパッション都市』慶應大学出版会（2022）、笈裕介著『認知症世界の歩き方』ライツ社（2021）を監修。



※感染症対策のため、事前申込みをお願いします。（ZOOM視聴あり）

開催日 2022年12月17日(土)

お申し込みは
こちらから→



時間 13:30より（開場：13:00）

南砺市医療ポータル

会場 南砺市地域包括ケアセンター 多目的研修室 南砺市北川166-1

お問い合わせ先 0763-23-1003

主催：南砺市地域包括医療ケア部
医療課（南砺市北川166-1）

【講演会概要】

生きづらさが身近なものとなり、年齢にかかわらず支援ニーズが広がりつつある。さらに人口減少の影響もあり、従来の社会保障のアプローチでは対応できない状況が生まれている。こうしたなか、地域共生社会－制度・分野ごとの縦割りや「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や領域を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会－の実現に向けた改革が急務とされている。

本講演では、まず「共生」概念を紐解き、人との共生・環境との共生の観点からグローバルな潮流に検討を加え、共生支援・共生保障に関する我が国における近年の政策トピックについて、府省庁横断で概観する。

さらに、「人と人とのつながりを再構築し、誰もが参加でき、多様な人々が支え合う伴走型支援・地域づくりとその循環」を住民主体の共生型地域づくりとみなすこととして、「主体形成」と「つながり」に焦点をおき、個別支援と地域づくりのそれぞれに焦点をおく国内13の活動・地域を分析対象として、取組みの見える化と地域マネジメントにおける活用可能性の検討を試みた研究班の成果の一部を報告する。

そのうえで、ケアの思想と共感に基づく協働、相互扶助と地域資源・経済循環という2つの視点から、共生をもたらす土台について考察を試みることにしたい。